

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けさせる。	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養っていく。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<p>ア定期検査の結果を見ると器具の名前や現象を表す語句の定着に課題がある生徒が多い。</p> <p>イ既習事項や実験の結果をもとに、観察や実験の考察を行う力に課題がある生徒が多い。</p>	<p>ア知識・技能の定着ができるよう、毎時間振り返りの時間を設ける。授業内で練習問題に取り組んだり、小テストを行ったりして定着を図る。</p> <p>イ考察の型を提示し当てはめて書くことから指導し、考察する力を養う指導を行う。また、グループで話し合う活動を通して考察を深める指導を行う。</p>	毎回の授業	
第2学年	<p>ア実験を行うときの、実験器具の扱い方に課題がある生徒が多い。</p> <p>イ指示された実験を正しく行うことはできる。しかし、仮説を立てたり結果から考察したりすることに課題がある生徒が多い。</p>	<p>ア教科書やスライドを用いて器具の扱い方や注意事項を視覚的に分かりやすく指導する。</p> <p>イ既習事項の復習を行い、仮説や考察に生かすことができるよう指導する。プリントを用いて話し合いの道すじを示し、グループ活動で考察を深める指導を行う。</p>	毎回の授業	
第3学年	<p>ア知識の定着はおおよそできている。技能の面で、実験・実習器具の取り扱いに課題がある生徒が一部いる。</p> <p>イ知識を基にして、思考力を働かせて考えを記述することに課題がある。</p>	<p>ア基本的知識・技能のレディネステストや復習テストなどを適宜行い、実験・実習器具の取扱いについて、定着度を確認しながら進める。</p> <p>イ実験のまとめや、小単元のまとめの際に考えを記述させる活動を行い、生徒の記述力の向上に努めるとともに、単元の終わりの際には入試問題など取り組ませることで応用力を養う。</p>	毎回の授業	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<b>全学年</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>実験班の予想や結果をロイロノートやスプレッドシートで全体に共有する</li> <li>実験で起きた現象をタブレット端末で動画や写真に撮り記録し、実験結果の考察に生かす。</li> <li>実験結果から考えたことをタブレット端末で共有することで、話し合いを効率よく進め、自分の考えを深める取組を行う。</li> </ul>	<b>全学年</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとに学習目標を設定し、見通しをもった学習活動ができる指導を行う。</li> <li>「単元を貫く問い合わせ」を設定することが有効と判断する単元では実施し、生徒が学ぶ目的を明確にして授業に臨めるようにする。</li> <li>前時の復習や授業後の振り返りを行い、振り返りかつ繰り返し学習により学習内容の定着を図る。</li> </ul>